

現象と秩序

第21号 (2024.10)

論 説

尋問をオンライン化したとき起こること —オンライン尋問データを反射鏡としたリアル尋問の見える化—	1
正込 健一朗	
アクティブ・インタビューと記憶障害者の新研究路線 —高次脳機能障害者の新たな挑戦—	23
大河原 節子	
アロママッサージの関わりを通じ緩和ケア入院患者の全人的苦痛を考えた 二つの症例報告	49
畠 亜紀子 江坂 直樹 横田 美雄	
ろう者による手話の習得過程の語りから考える「手話の豊かさ」	63
飯田 奈美子	
看護師との協同作業に埋め込まれたポジション —ALS在宅療養場面におけるマルチモーダルな相互行為分析—	87
松浦 智恵美	
認知症の社会学・序 —95歳認知症女性は、どのようにして季節見当識を示したのか—	109
横田 美雄 北村 隆憲	
『現象と秩序』投稿規定・執筆要領	119
編集後記	123

【編集後記】『現象と秩序』第21号をお届けします。今回も多様な6論考です。

第1論文は、オンライン模擬裁判実験における尋問が法実践に及ぼす影響について、法廷でのリアルな尋問との比較のなかで探究しています。ハードの問題、手続の問題、法廷という場の意味を含む「複合問題」と称される問題群等の指摘は、決定的な意義をもちます。

第2論文では、高次脳機能障害者が抱える「雑談の困難」という問題に、アクティブ・インタビューが調査方法としてのみならず、その問題解決方法としても有用である点が見出されています。インタビューの共同構築性と心理学的療法の親和性を感じさせる論考です。

第3論文では、アロマセラピストである筆頭著者が、緩和ケア病棟で実施した施術場面のなかで患者にもたらされるその“効果”を探究しています。診療記録に基づく研究の難しさはありますが、全人的苦痛の除去にアロマテラピーが寄与する可能性が垣間見えます。

第4論文は、口話教育を受けてきたろう者のアイデンティティ構築過程に関する貴重なインタビュー記録です。言語的マジョリティ/マイノリティや日本手話/口話といった対立構図およびデフ・コミュニティとの関係性に翻弄されるろう者の人生が描かれています。

第5論文は、在宅でALS療養者を介護する訪問看護師と主介護者との相互行為場面のビデオ・エスノグラフィー研究です。主介護者によるもはやプロ並みのポジション取りとそのメッセージ性、そして、場面を支配しているかのように見える優先性は大きな発見です。

第6論文では、介護度認定調査員が認知症者の季節認識能力を調べる質問・応答場面が分析されています。調査員の「瞠目の表情」を読み取る認知症者の高度なコミュニケーション能力と、季節理解の共同作業という「認知症者的豊かさ」に関する説明は実に鮮やかです。

本誌掲載論文へのご意見・ご感想など、どうぞ本編集委員会までお寄せください。(Y.H.)

『現象と秩序』編集委員会（2024年度）

編集委員会委員長：堀田裕子（摂南大学）

編集委員：樋田美雄（摂南大学）、飯田奈美子（立命館大学）、加戸友佳子（摂南大学）

編集協力：村中淑子（桃山学院大学）

編集幹事：福永和也（京都産業大学）

『現象と秩序』第21号 2024年 10月31日発行

発行所 〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町17-8

摂南大学 現代社会学部 樋田研究室内 現象と秩序企画編集室

電話・FAX) 072-800-5389 (樋田研), e-mail: kashida.yoshio@nifty.ne.jp

PRINT ISSN : 2188-9848

ONLINE ISSN : 2188-9856

<https://gensho-kashidayoshio.sakuraweb.com/> (←今号から新サイトになりました)
